

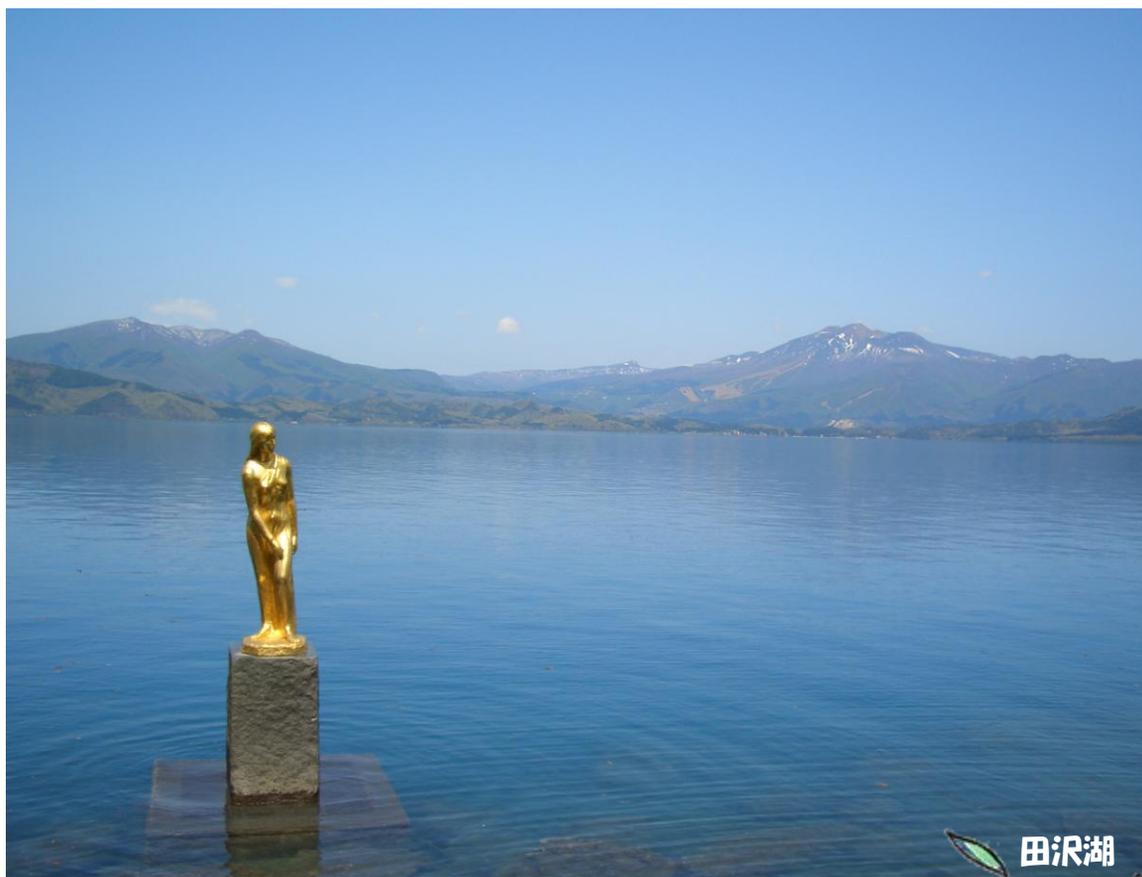
しょうなんメール

Vol. 15

2008年6月号

CONTENTS

- ◇ 特別養護老人ホームかまくら愛の郷 特集 .....2
- ◇ 旬を食べよう！旬のレシピ2 「梅」 .....5
- ◇ ドクター紹介 .....6



田沢湖

医療法人社団 愛心会 湘南鎌倉総合病院

理念

- ◇「生命を安心して預けられる病院」
- ◇「健康と生活を守る病院」



平成20年5月1日 特別養護老人ホームかまくら愛の郷が開所しました！！

# かまくらの地でふれ愛とともに



## 社会福祉法人 湘南愛心会 特別養護老人ホーム かまくら愛の郷

施設概要

施設種別	全室個室ユニット型 小規模生活単位型特別養護老人ホーム
施設の名称と種別	社会福祉法人湘南愛心会 特別養護老人ホーム かまくら愛の郷
開設日	平成20年5月1日
入居定員	特別養護老人ホーム 90名 全室個室 短期入所（ショートステイ）20名 全室個室
ユニット数	11ユニット 全LDK配置 全室トイレ・洗面所付
併設施設	デイサービスセンター（定員20名）
施設の規模	建物構造：鉄筋コンクリート地上4階地下1階 建築面積：1464.16㎡ 延床面積：6123.76㎡
協力医療機関	湘南鎌倉総合病院
協力歯科医院	うえだ歯科植木診療所



# 平成20年5月1日 特別養護老人ホームかまくら愛の郷が開所しました！！

## 住み慣れた郷の暮らしを支えます

施設長の阿部伸子と申します。「社会福祉法人湘南愛心会特別養護老人ホームかまくら愛の郷」は鎌倉市の特養では8箇所目、徳洲会グループの中では11箇所目の特養の開所となります。開所に至りますまでに、実に様々な、数多くの皆様方のご尽力によりまして、「かまくら愛の郷」の一步を踏み出すことが出来ました。この一步は大きく前進し続ける歩みである様、職員一同で努力して参ります。

地域の地域の皆様からは、私どもの施設に熱いご期待をお寄せ頂きました。正面玄関に「玉縄櫻」を3本植えて頂きました。皆様と共に桜の成長を見守っていきたくと思います。

5月1日よりご入居を開始し、1ヶ月で90名の方全員が入居される予定です。お申し込み者、約400名の中からの狭き門でした。ご入居者の平均介護度は約4.2となる予定です。重介護の高齢の方々に、一日を心穏やかに安心して生活していただけるよう、理念の中に「寄り添う介護」を掲げました。特別養護老人ホームの「住まいとしての機能」と「施設としての安全管理」をバランスよく発揮しながら運営していく所存です。

今後、湘南鎌倉総合病院との連携と、地域の各機関の皆様方の、更なるご支援をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

阿部  
伸子  
施設長



開所式

### 現地ご案内図



社会福祉法人 湘南愛心会 特別養護老人ホーム **かまくら 愛の郷**

住所 / 〒247-0073 神奈川県鎌倉市植木683-10 TEL / 0467 (41) 1122  
 アクセス / JR大船駅西口・大船観音橋下車 徒歩20分 FAX / 0467 (41) 1121  
 神奈中バス・公会堂前下車 徒歩3分

## ユニットケアとは ……

小規模な生活単位（ユニット）で行う新しい介護の方法。各ユニットには、プライバシーが保てる個室、交流の場であるリビング・ダイニング、浴室などを備えています。

ユニットごとにいつも同じ職員を配置しているので、顔も覚えやすく安心感があります。ここでは1ユニットが10人と少人数なので「家庭的な雰囲気」に満ち、入居者一人ひとりの個性を大切にしたい看護や介護が実現できます。

### 施設のご案内



4F

すみれが丘

3ユニット  
(30床)



3F

やまぶき峠

3ユニット  
(30床)



2F

さくら山

3ユニット  
(30床)

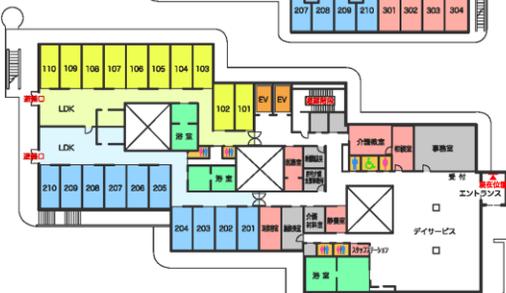


1F

あじさい道

ショートステイ  
(20床)

デイサービス  
(20名)



B1

駐車場



居室

ユニット内リビング・ダイニング



## 旬のレシピ2

## 旬を食べよう（梅）

旬  
うめ

「梅の実が熟す時季の雨」ということから付けられたとも言われる“梅雨”。蒸し暑くてカビなどが繁殖しやすいこの季節に、梅は大変重宝します。

また、梅には特に、有機酸が多く含まれています。中でもクエン酸は、エネルギーや乳酸の代謝を良くし、疲労回復や夏バテ解消に効果があると言われてしています。加工品として、梅干し・梅酢・梅酒・梅肉エキスなどがあります。

梅干しは、青梅を塩漬けて日に干した保存食。弁当には付き物ですが、防腐・殺菌作用を利用した、昔からの知恵と言えるでしょう。でも塩分の含有量が多いので、食べ過ぎには注意しましょう。

## 梅雨の時に取り入れたい梅レシピ

## =梅きんぴら=（4人分）

## 《 材 料 》

・ごぼう	80g
・にんじん	60g
・豆苗	30g
・梅干	20g
・みりん	大きじ2
・ごま油	小さじ1
・油	適宜
・黒すりごま	適宜

## 《 つくり方 》

- ① ごぼう・にんじんは3.5cm程の長さに切り、マッチ棒の太さに切る。
- ② 豆苗も3.5cm程の長さに揃えて切る。
- ③ 梅干は種をとり、身を包丁でたたいてみりんと和えておく。
- ④ フライパンに油を軽くひき、ごぼうを中火で炒める。少し火が通ったらにんじんも入れさらに炒める。にんじんにも火が通ったら豆苗も入れさらに火を通す。それぞれの野菜が柔らかくなったら火を止め、③のあわせ調味料を混ぜ合わせる。
- ⑤ 盛付時にごまを振って出来上がり。



# ドクター紹介

## 腎臓内科 小林 修三 副院長



内科医として30年。卒業を控えた学生時代、移植医療に夢を抱き、当時開始されたばかりの透析医療の現場でアルバイトもしていました。おそらく誰より早く、腎臓・高血圧・動脈硬化など循環動態について興味を持ちつつも、移植を行っていた当時の泌尿器科の医局にも出入りしていたので、皆はてっきりそちらへ入局し移植医になるのだらうと思っていたに違いありません。それが、亡き恩師、浜松医科大学第一内科の元教授に出会い、強い勧めもあって腎臓内科への道を歩み始めました。浜松医科大学は昭和49年開校し、その1期生として入学したものの、国会での法案通過が遅れ7月の開校。あこがれた大学キャンパスも無く、プレハブの校舎一つで学生時代を過ごしました。いずれ、どこそこに何々ができる予定ですと繰り返し案内されるたびごとに嫌気がさし、いっそ辞めてしまおうかと思ったほどです。考えてみると当院に赴任した、今から10年近く前も

同じで、私はよほど「プレハブ人生」なんだと妙に感心した覚えがあります。

恩師の元教授はこう言われました。移植の世話にならないように病気の本態に向かい腎臓病を治しなさい。21世紀は救命救急と外傷外科以外は外科的切除は無くなり、内視鏡・血管内治療や再生医療、予防医学が主流となるから今のうちに病態をよく勉強しておくように言われました。確かにそうなってきました。先端医療も重要ですが、しかし、この年になってますます感じるのが「癒しの医療」の大切さです。ある時、朝日メディカル2000年4月号に私のこのような思いを書いた総説が出ました。この記事は、心無い医師の説明不足や表現力の欠落を指摘し、なぜ癒されない医療が問題となっているかを私なりの感想として綴ったものでした。これを見たある方の忠告「言うはやすし、行なうは難し。何か世の中を動かすべく社会活動をせよ」との意見に従い、2001年「癒しの医療を考える会」を起し一昨年NPO法人に育ちました。そもそも病院(ホスピタル)とは、紀元529年イタリアのモンテカッシーノ修道院に設けられた養護施設(ホスピス)が最初であったと言われます。困った人々を助け、心の安らぎを与え、さらに身体の問題までを治療しようとして作られたわけです。このように、アスクレピオスの教える医療を実践するのが「癒しの医療を考える会」というわけです(<http://www.geocities.jp/iyashinoiryu2006/>)。人は誰も老いていきます。アンチエイジングでなくウェルエイジングこそ大切なことです。なぜ、芸術であったかについては、おそらく先端医学における限界を芸術の力を借りることによって多少なりとも何とかしたいという気持ちがあったからでしょうか。「医師といえども言葉を扱う科学者である」、とのソクラテスの言葉にもあるように、まず国語や芸術を習い、みずからの医療観をもつべきであるというのが私の持論です。医学は一つですが、医療はいくつあってもいいわけです。説明するのに言葉が必要であり感性が必要です。

上の写真は私の趣味であるクラシック音楽を聴くことだけに飽きたらず、高校時代の吹奏楽部(ほんとうはバレーボールをやっていたのですが、それこそ私に蛋白尿が出たためドクターストップがかかった)でのクラリネットを、高校卒業以来25年ぶりに始め、私のもう一つの持論「世にものを問う姿勢」の自分への課題として演奏を行った時の写真です。医師としての「世にものを問う姿勢」は、多くの一流の英文論文を執筆するということで実践してきました。しかし、中学時代に夢中になっていたバレーボール部の先生からは何事でもしっかりやれという「文武両道」をあわせて教わっていましたので、クラリネット演奏もなんとか腕を磨きたいと時間をやりくりして成し遂げたものです。1週間に2時間やれば2年間で200時間練習し1曲がなんとか仕上がります。

真冬の太田外房の海でヒラメを狙って行った荒波の中、90cmもあるサワラを釣った時も大いなる自分へのチャレンジでした。

医療は、バレーボールや皆でやる音楽同様、チームワークが大切です。一人のスーパードクターより100のスーパーチームが行う医療の重要性を病院全職員とともに築きあげ、「安心と幸せの処方」をこの病院に来られる多くの患者さんに提供したいと願っています。

来年3月14日の癒しのクラシックコンサートではあの97歳にしてご活躍の聖路加国際病院理事長で、医師の日野原重明先生もこの会にかけつけてくださることになっています。これをご覧になった多くの方に会員になってもらいたいと思います(事務局電話045-942-5965)。

